

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520819

研究課題名(和文) 豊臣秀吉 朝鮮出兵 歴史認識 韓国併合 植民地支配

研究課題名(英文) Toyotomi Hideyoshi, Korean Invasion, Recognition of History, Annexation of Korea

研究代表者

中野 等 (Nakano, Hitoshi)

九州大学・比較社会文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：10301350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では「朝鮮出兵」自体の史実について新たな解明を進め、加藤清正や黒田孝高といった諸大名の活動を中心に数編のモノグラフをまとめることができ、「朝鮮出兵」の史実をより豊かなものとすることができた。また、「朝鮮出兵」の記憶と記録化という課題についても、近世・近代に著述、刊行された多くの文献を入手した。このうち対馬の山崎尚長が編纂したとされる「両国王辰実記」については、幕末期に刊行された「正実 朝鮮征討始末記」との異動を詳細に論じた。また、文献調査にかかわる成果の一部として、明治期から昭和戦前期に国内、朝鮮半島で刊行された著作・論文を関係文献目録としてまとめた。

研究成果の概要(英文)：I advanced a new analysis of the historical fact about "Korean Invasion" itself. In this study I put together a number of monograph about the activities of Japanese feudal lords. As the result, my achievement made historical fact of the "Korean Invasion". Also for the challenge of recording and storage of the "Korean Invasion", I have obtained a large number of documents and old rear books that had been published in Edo period and Modern Japan. In addition, as part of the outcomes related the literature review, I summarized catalog of the literature that have been published in Japan and Korean Peninsula in the Showa pre-war period from the Meiji period.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：豊臣秀吉 豊臣政権 歴史認識 朝鮮出兵 韓国併合 植民地支配

1. 研究開始当初の背景

豊臣秀吉の伝記研究はもとより、政権論・朝鮮出兵についても戦前から非常に厚い研究史を誇っている。ただし、従来ともすれば後年の編纂資料にすぎない小瀬甫庵の『太閤記』等に拠って、政権論や政権内の諸機構(たとえば、五大老・五奉行など)を位置づけようとする傾向があり、必ずしも周到な議論が行われてきたわけではない。一九六〇年代以降、幕藩制構造論・幕藩制国家論隆盛の中で、ようやく豊臣政権論の位置づけは大きな比重を与えられ、その後の実証研究を導いていくことになる。ただし、その段階にあっても朝鮮出兵それ自体は、政権論のいわば「後景」にすぎず、研究の本格化は七〇年代の後半を待たねばならない。その後九〇年代までに北島万次氏らに主導されるかたちで、朝鮮出兵研究は大きく深化し、多様化してきた。しかしながら同時に、従来の研究史における欠点として、たとえば、戦争全体を規定する戦略、実際の戦闘、国家間の戦争、それらに付随する社会史的要素、同時代の情報・風聞、戦後における評価・認識をふくめた戦史の部分、といった戦争をめぐる様々な要素が弁別を意識されることもなく、同次元に論じられることの問題点を指摘した。そこで、報告者はまず、豊臣秀吉の軍令をみることで、日本側の戦略を概観し(拙著『秀吉の軍令と大陸侵攻』吉川弘文館、二〇〇六年)、さらに一連の研究を集大成するものとして、二〇〇八年通史のかたちで『文禄・慶長の役』(吉川弘文館「戦争の日本史」一六)をまとめた。

これらによって、報告者としては朝鮮出兵それ自体の研究には一段落をつけることができたが、朝鮮出兵をめぐる広義の戦史また後世の歴史認識と実際の戦争の相関関係について、さらなる追究の必要性を感じ、平成十九(二〇〇七)年度から科学研究費補助金基盤研究(C)を申請し、研究課題「朝鮮出兵」の記憶と記録化に関する基礎的研究」

を推進してきた。ここでの研究成果をまとめると、情報・風聞論の素材として「朝鮮出兵」の位置づけをおこない、また近世思想史における「朝鮮出兵」理解、あるいは「朝鮮観」の概説的理解をうることができた。さらに、その中で幾人かの思想家をキーパーソンとして評価できることが明らかとなったが、「朝鮮征伐」観の日本における定着の観点からとくに大きな役割を果たした山鹿素行についてモノグラフを完成させた。

こうした背景を踏まえ、「朝鮮出兵」それ自体のさらなる史実究明と、とりわけ幕末から近代に至る間に言説研究をもくろんだのが、本研究課題であった。

2. 研究の目的

一九一〇年の韓国併合に際し、初代朝鮮総督になった寺内正毅は「小早川、加藤、小西がよにあらば、今宵の月をいかにみるらむ」と詠んだという。これに象徴されるように、近代日本による韓国併合は、豊臣秀吉以来の宿願が果たされたような文脈で語られることがある。さらに、時代を遡及させて、神代神功皇后の「三韓征伐」以来の歴史的必然であるかのような言説も存在する。いずれにせよ、豊臣秀吉および彼の起こした大陸・朝鮮への侵攻は第二次世界大戦にいたる近代日本が対外的膨張政策の過程で、再三にわたり喚起され思想動員された記憶であった。かかる関心から、本研究では豊臣政権の実施した大陸・朝鮮への侵攻、それ自体の史実を充実させるとともに、近代日本の政治過程と、そのときどきに必要とされた豊臣秀吉像・朝鮮出兵に関わる歴史認識とを相関的に位置づけていこうとするものである。

3. 研究の方法

まず課題の一つである史実の復元については、資史料の収集と分析が中心となる。具体的には東京大学史料編纂所をはじめとする史料保存機関を対象として史料収集を実

施し、これまでの独自の研究成果に依拠しつつ、史料の細かな年紀比定を行って、正確な史実復元をこころみた。

一方の、近世・近代日本における「朝鮮出兵」の語られ方については、近世の著作類を国立公文書館所蔵「内閣文庫」および国立国会図書館の古典籍を対象に精査し、同時に東京大学史料編纂所・国立国会図書館等を中心に近代以降の史料収集につとめた。

4. 研究成果

豊臣政権の大陸侵攻（朝鮮出兵）については、すでに一連の研究を集大成するものとして『文禄・慶長の役』（吉川弘文館「戦争の日本史」一六）をまとめているが、通史という体裁から割愛した論点も少なくない。そこで、本研究ではさらなる史実の解明と復元を目指し、侵攻の主力であった加藤清正の動きを主軸に置き、韓国側の史料にも一定の配慮しつつ、論稿をまとめた。また、秀吉の軍監的立場から戦争にかかわったと考えられる黒田孝高に関しても、この時期の動向を細かく追う作業を試み、商業出版ではあるが成果を公にした。

一方の、近世・近代日本における「朝鮮出兵」の語られ方については、文献の収集に時間を費やしたという恨みがのこる。とはいえ、近世段階における著作・刊行物については、平成十九（二〇〇七）年度からの科学研究費補助金（基盤研究（C）研究課題「朝鮮出兵」の記憶と記録化に関する基礎的研究）の成果とあわせ、資料についてはほぼ網羅的な蓄積をおえた。具体的分析としては、「近世後期における「唐入り」の語られ方」や「山崎尚長の『両国壬辰実記』と刊本『正実 朝鮮征討始末記』」をまとめた。前者は近世前期の言説状況を瞥見し、さらに国学、頼山陽、後期水戸学における大陸侵攻（朝鮮出兵）の位置づけについて論じた。また、後者は対馬藩士で釜山の和館などにも勤めた山崎尚長の著作をオリジナルと幕末の刊本との間で

どのような異動が生じているか、詳細に究明している。報告者はすでに山鹿素行における大陸侵攻（朝鮮出兵）の位置づけについても論究しており、これらの成果を柱に議論の体系化をはかりたい。

また、文献調査にかかわる成果の一部として、明治期から昭和戦前期に国内、朝鮮半島で刊行された著作・論文を「昭和戦前期にいたる「朝鮮出兵」関係文献目録（稿）」（九州大学九州文化史研究所紀要第57号）としてまとめた。これによって、近代以降の研究動向を一覧することが可能となり、学界へ幾分かでも貢献できたと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

中野 等、近世後期における「唐入り」の語られ方、歴史学研究、査読有、882号、2011、1-13、

中野 等、「山崎尚長の『両国壬辰実記』と刊本『正実 朝鮮征討始末記』」、九州大学九州文化史研究所紀要、査読無、55号、2012、33-128、

中野 等、唐入り（文禄の役）における加藤清正の動向、九州大学九州文化史研究所紀要、査読無、56号、2013、35-110、

中野 等、豊臣政権の関東・奥羽政策、茨城県史研究、査読有、97号、2013、31-50、

中野 等、昭和戦前期にいたる「朝鮮出兵」関係文献目録（稿）九州大学九州文化史研究所紀要、査読無、57号、2014、1-15、

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 2 件）

中野 等、豊臣政権論、岩波講座『日本

歴史』近世 1、岩波書店、2014、312(63-98)
中野 等、黒田官兵衛と朝鮮出兵、『黒田
官兵衛』、宮帯出版社、2014、334(166-181)

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中野 等 (NAKANO.Hitoshi)

九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授

研究者番号：10301350

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：